

令和3年度 大分県商店街実態調査報告書

大分県商工観光労働部 商業・サービス業振興課

目次

1

調査概要 3

2

調査結果 4

問1 5

問2 13

問3 14

問4 15

問5 16

問6 17

問7 18

問8 19

問9 20

3

アンケート調査表

調査概要

商店街の会員数や空き店舗数等の実態把握を目的に県内商店街組織を対象にアンケート調査を実施したものの。

平成20年度から平成27年度までは県内の商店街振興組合へのみ調査していたが、平成28年度から範囲を広げ、協同組合や任意団体も含む、県内の全ての商店街組織へ調査を依頼した。

- 1. 調査時点 : 令和3年10月31日**
- 2. 配布数 : 90団体**
(振興組合 : 21、協同組合 : 10、任意団体 : 59)
- 3. 回収数 : 56団体**
回収率 : 62.2%

市町村別回答数

市町村	商店街数	回答数	回答率
大分市	24	17	70.8%
別府市	13	8	61.5%
中津市	4	2	50.0%
日田市	13	9	69.2%
佐伯市	7	5	71.4%
臼杵市	5	3	60.0%
津久見市	6	2	33.3%
竹田市	1	1	100.0%
豊後高田市	6	3	50.0%
杵築市	1	1	100.0%
宇佐市	1	0	0.0%
豊後大野市	1	1	100.0%
由布市	4	2	50.0%
国東市	2	1	50.0%
姫島村	0	0	-
日出町	0	0	-
九重町	0	0	-
玖珠町	2	1	50.0%
計	90	56	62.2%

問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

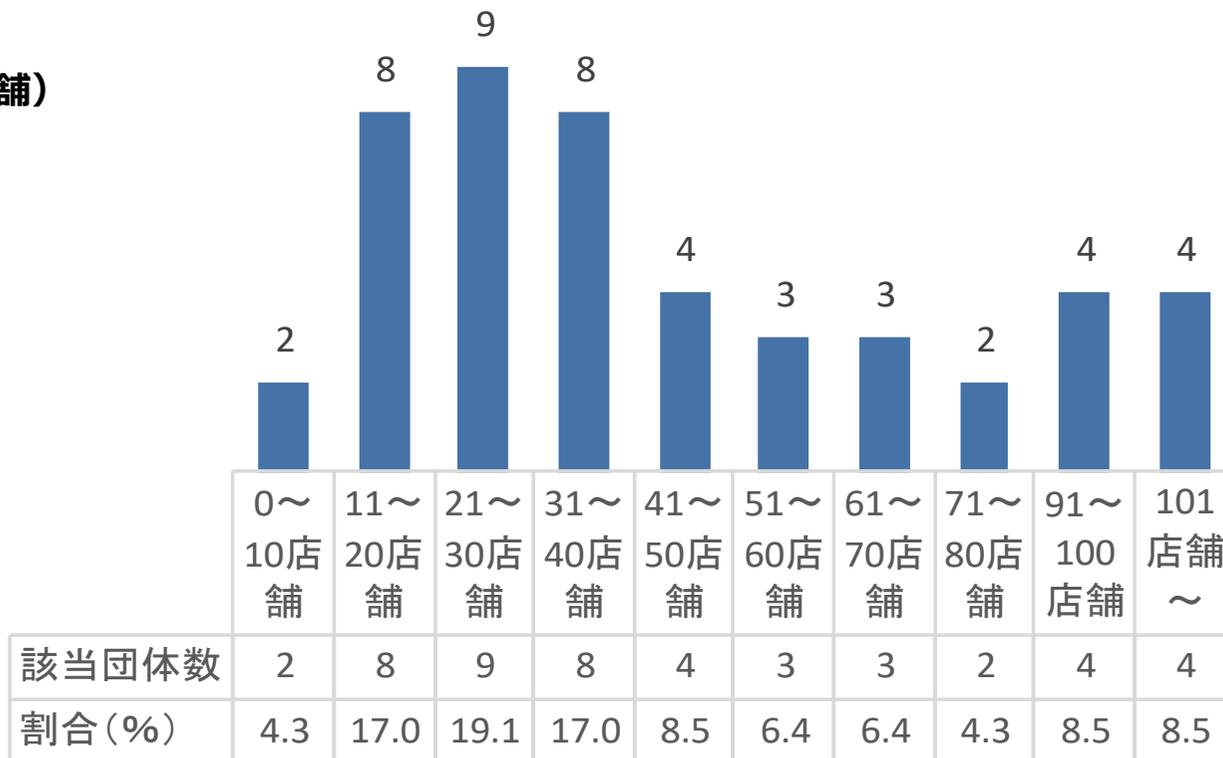
全店舗数

全店舗数：商店街区にある全ての店舗数（商店街会員等以外の店舗や空き店舗も含む）

有効回答数：49団体

- 全店舗数：2,516店舗（昨年度：2,718店舗）
- 平均店舗数：54.4店舗（昨年度：53.3店舗）

→平均店舗数はほぼ前年並み



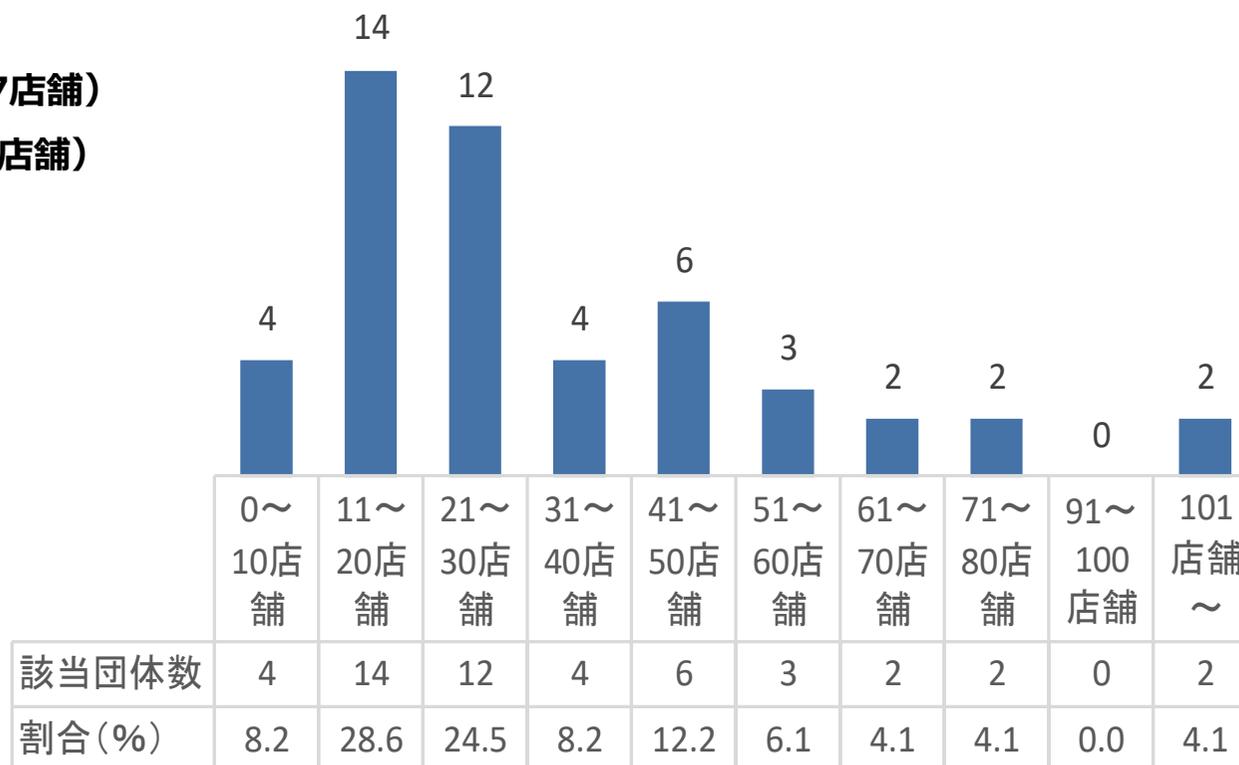
問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

会員店舗数

有効回答数：51団体

- 全会員店舗数：1,601店舗（昨年度2,117店舗）
- 平均会員店舗数：32.4店舗（昨年度：35.9店舗）

→平均会員店舗数がやや減少



問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

組織加入率

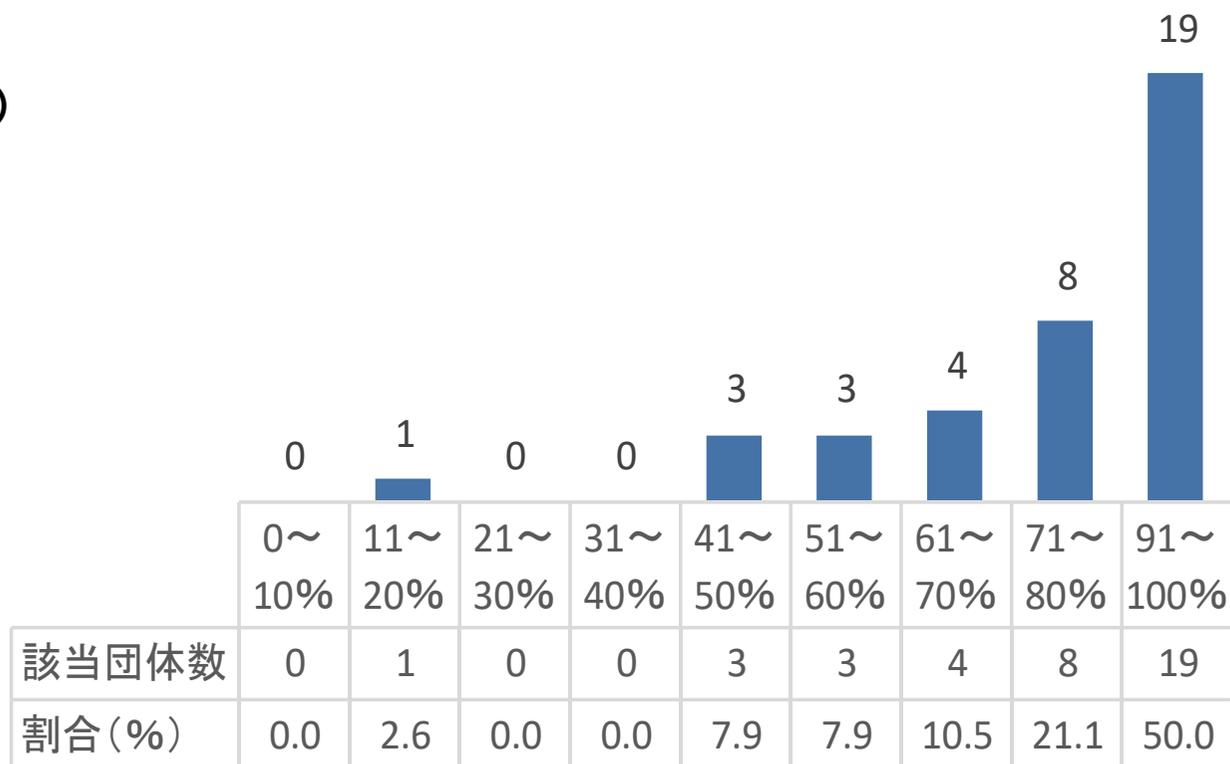
組織加入率：会員店舗数 / (会員店舗数 + 非会員店舗数)

有効回答数：48団体

- 平均組織加入率：81.0%（昨年度：85.0%）

→平均組織加入率は昨年度から微減

→一方で、昨年度同様に9割以上の店舗が組織に加入している商店街が最も多い

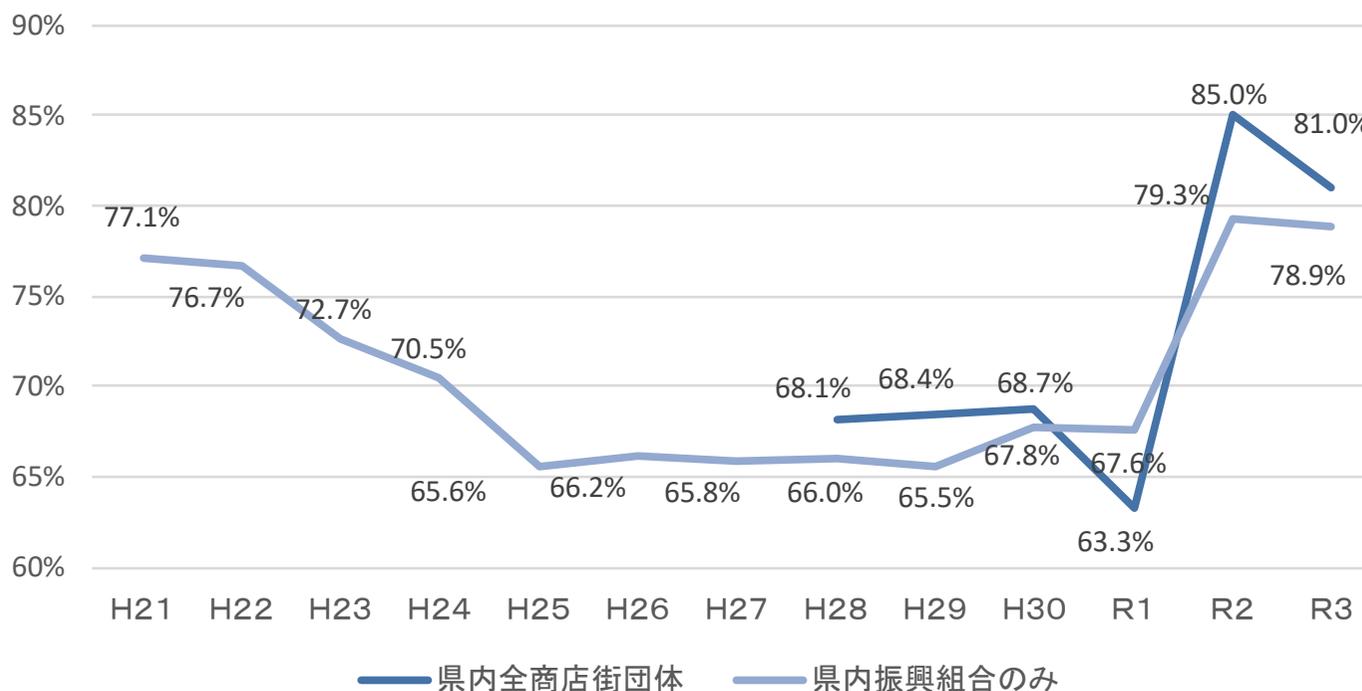


問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

組織加入率の推移

※県内全商店街を対象とした調査は平成28年度より実施

組織加入率：
会員店舗数 / (会員店舗数 + 非会員店舗数)



- 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響に対する各種支援策を受けるため、組織加入率が大幅に増加したが、令和3年度は減少傾向にある

問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

空き店舗数

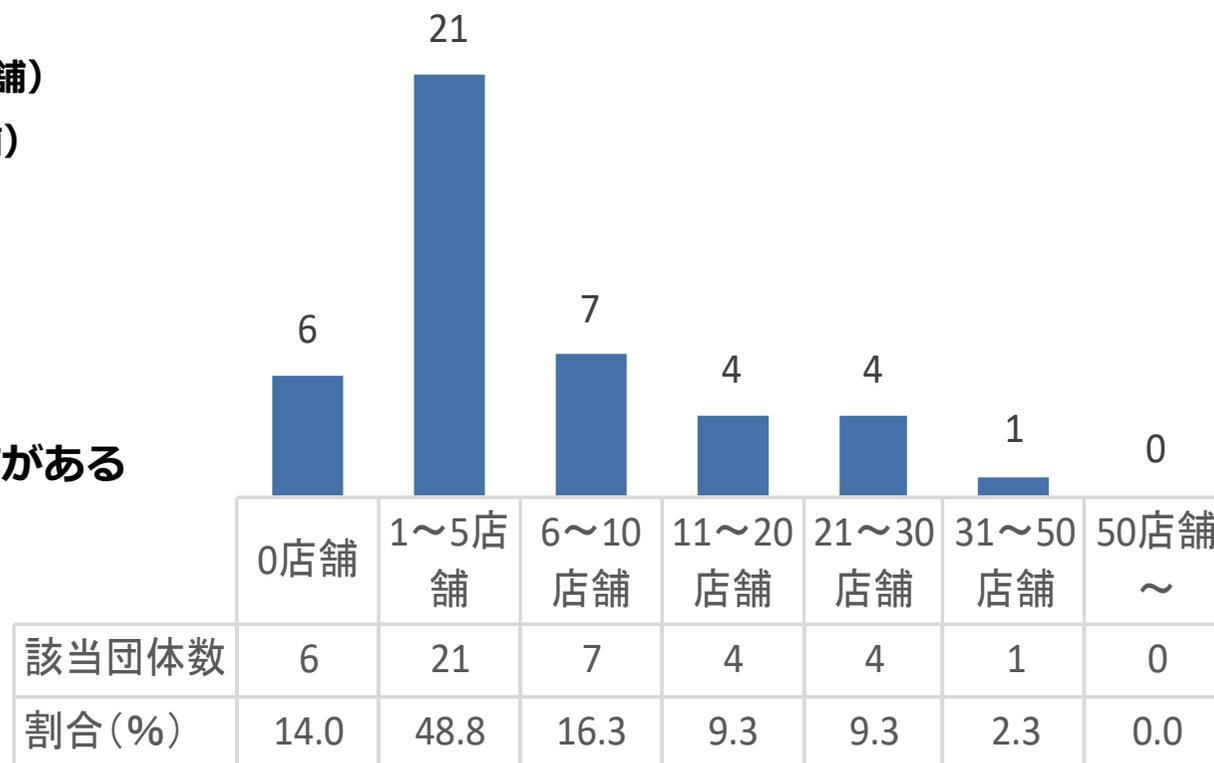
空き店舗：従前商店として利用されていたものであって、内外装を施す程度で店舗として利用できるもの。
(住居やオフィス用等に改装され今後商業利用が困難な店舗や、既に建物が取り壊され駐車場や空き地になっているものを除く)

有効回答数：45団体

- 全空き店舗数：315店舗（昨年度：348店舗）
- 平均空き店舗数：8.6店舗（昨年度：7.4店舗）

→県内の商店街にある平均空き店舗数は
昨年度より微増

→一方で、昨年度同様に1～5店舗空き店舗がある
商店街が最も多い



問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

空き店舗率

空き店舗率：空き店舗数／全店舗数

有効回答数：47団体

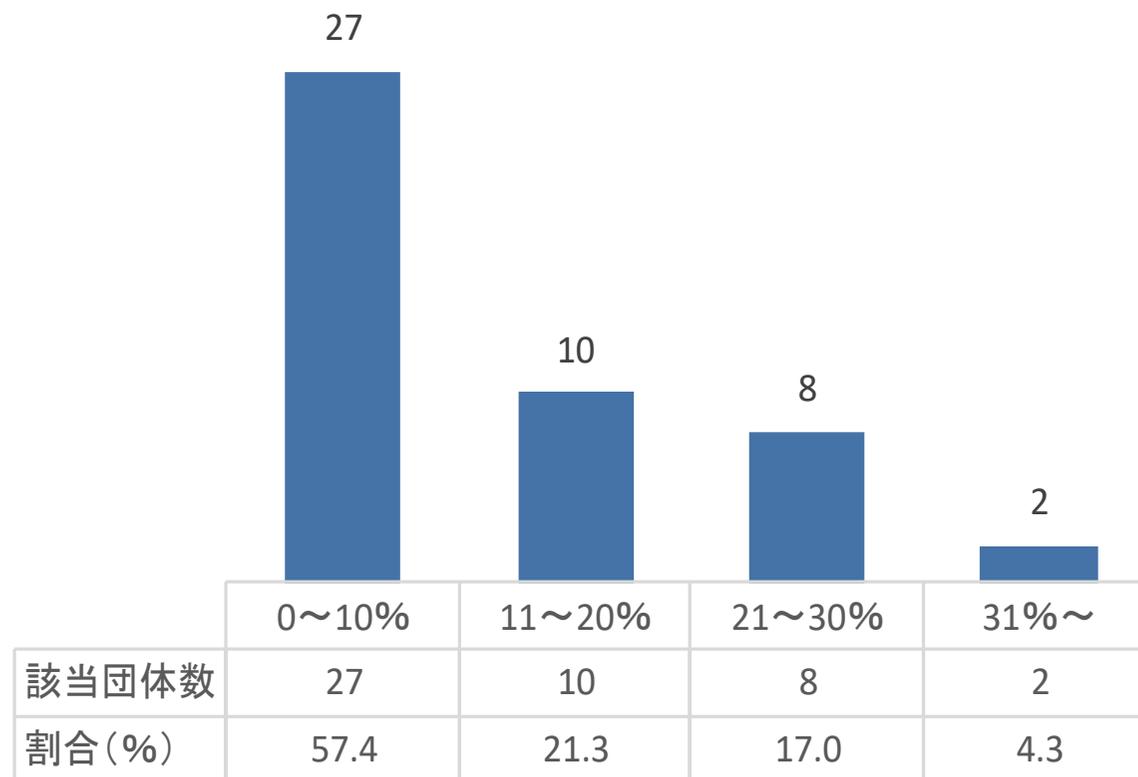
- 平均空き店舗率：11.7%（昨年度：12.9%）

→昨年度から平均空き店舗率は微減

→一方で、昨年度同様、

商店街内に10%以内の割合で

空き店舗がある商店街が最も多い



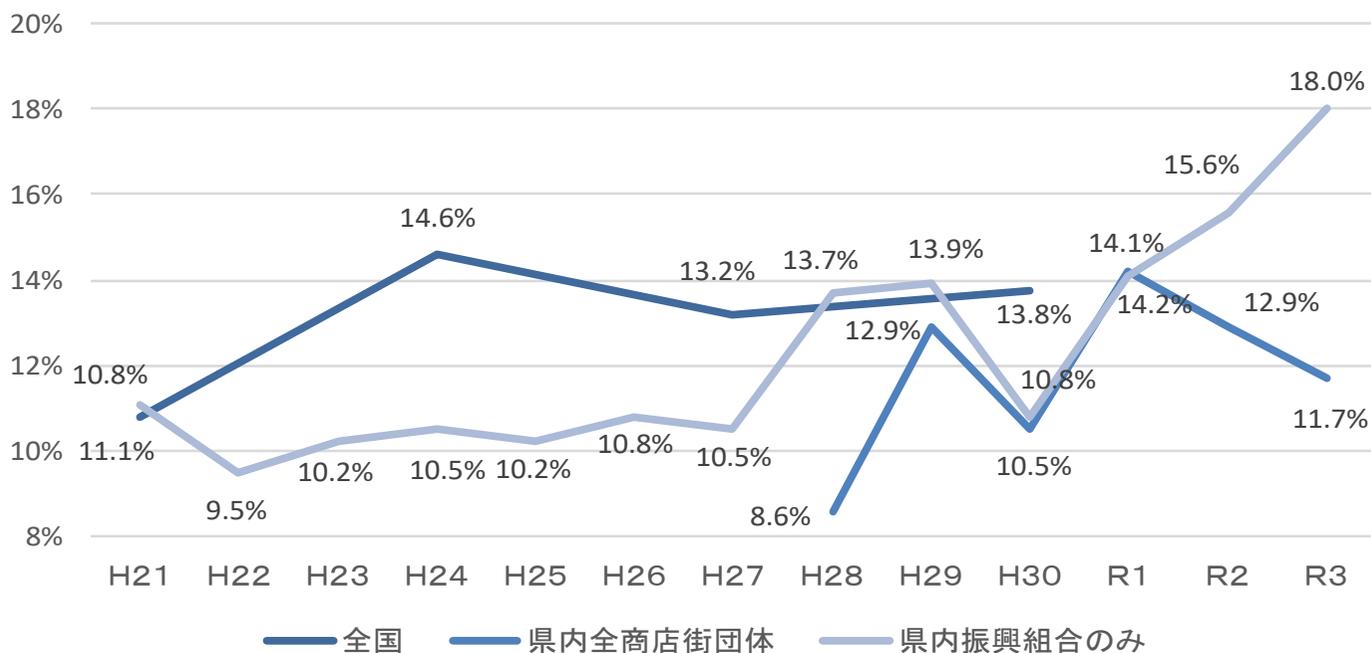
問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

空き店舗率の推移

※全国調査（商店街実態調査報告書（3年に1度実施）：中小企業庁）と県調査では空き店舗の定義が異なるため、単純比較はできない

全国調査：従前は店舗であったものが現状空きスペース（空き地、空きビル、空き倉庫等）になっているもの
 県調査：従前商店として利用されていたものであって、内外装を施す程度で店舗として利用できるもの

※H28全国値（平成28年度商店街空き店舗実態調査報告書：中小企業庁）は、平成27年度商店街実態調査報告書とも空き店舗の定義が異なるため参考値。
 （定義：従前は店舗であったものが、店舗として利用可能な状態でありながら利用の予定がない（所有者の利用の意志がない場合も含む）建物）



- ・ 県内全商店街の空き店舗率は年度によりばらつきがみられる
- ・ 振興組合では空き店舗率が増加傾向

問1 県内商店街の現状（令和3年10月31日現在）

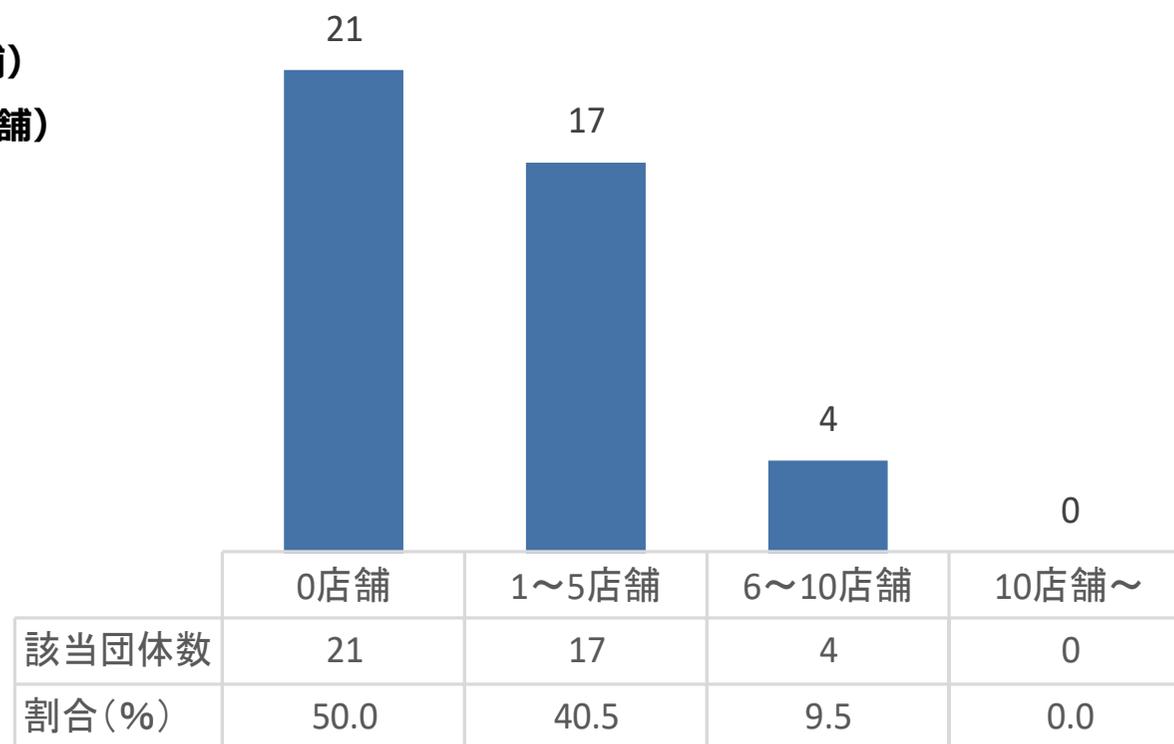
新規出店数

新規出店数：令和2年11月1日～令和3年10月31日に新規出店した店舗数

有効回答数：44団体

- 全新規出店店舗数：65店舗（昨年度：78店舗）
- 平均新規出店店舗数：1.7店舗（昨年度：1.7店舗）

→平均新規出店店舗数は前年並み



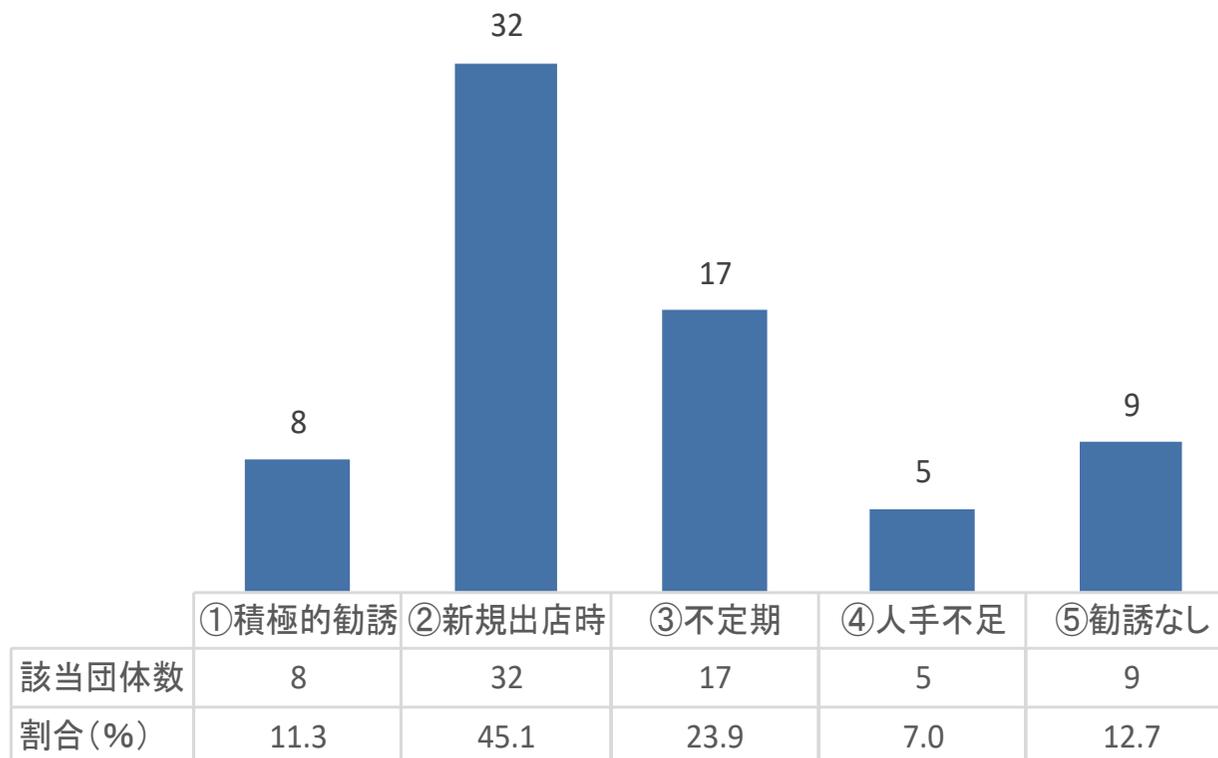
問2 会員の勧誘活動状況 (複数回答可)

有効回答数：49団体

質問項目：

- ①役員等が積極的に未加入店舗を訪問し、勧誘している。
- ②新規出店の際、勧誘している。
- ③不定期に勧誘活動を行っている。
- ④勧誘を行いたい、人手が足りない。
- ⑤特に勧誘活動を行っていない。
- ⑥その他

→新規出店時に勧誘活動を行っている
商店街が最も多く、
未加入店舗を積極的に訪問し、
勧誘活動を行っている
商店街は少ない



問3 勧誘活動の効果

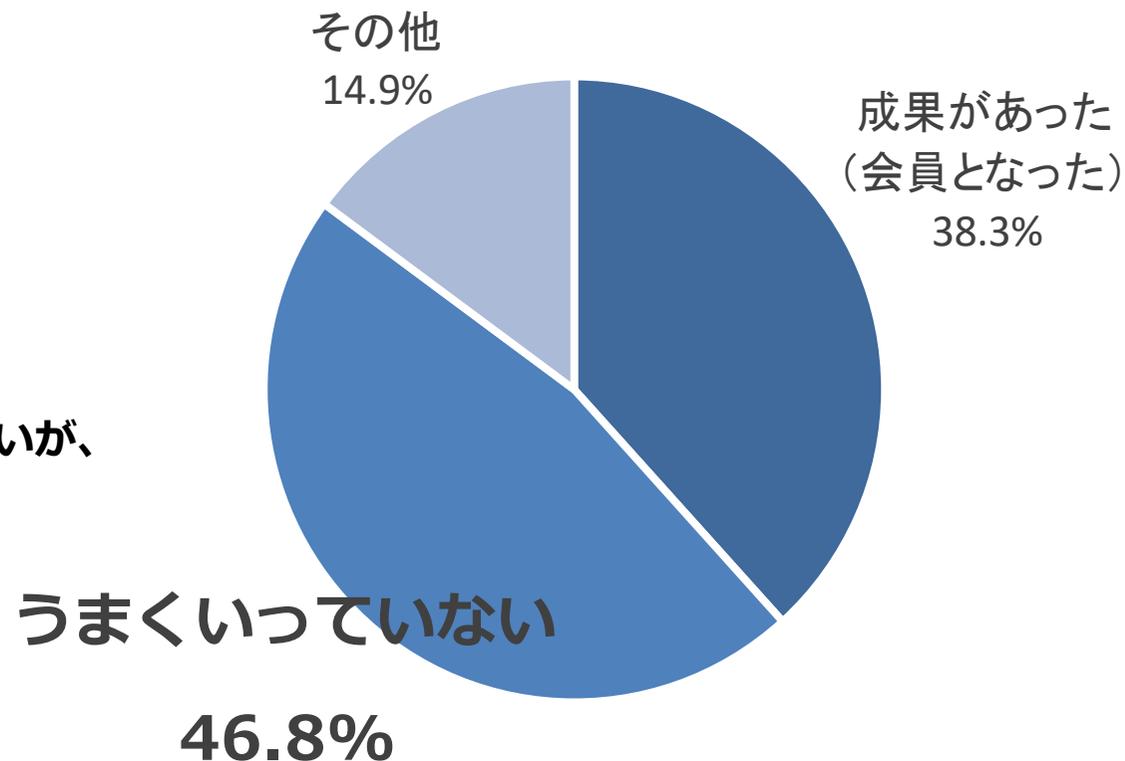
有効回答数：47団体

※問2で勧誘活動を行っていると感じた団体のみ回答

質問項目：

- ①成果があった（会員となった）
- ②うまくいっていない
- ③その他

- 新たに新店舗に勧誘活動を行う商店街が多いが、組織加入にはつながっていない商店街が多い
- その他を回答した商店街の中には、新型コロナウイルス感染症の影響で勧誘活動を行えないとの声があった



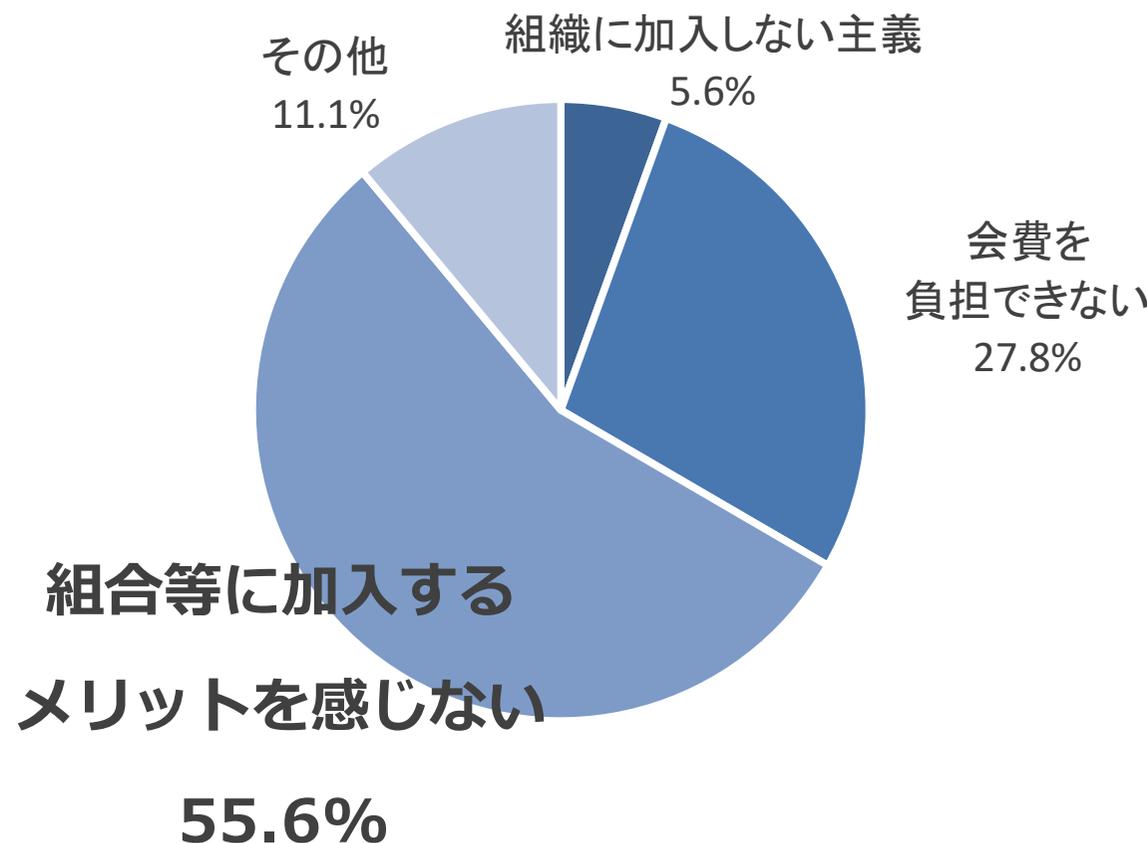
問4 商店街組織へ未加入の理由のうち最も多いもの

有効回答数：45団体

質問項目：

- ①組織に加入しない主義である
- ②会費を負担できない
- ③組合等に参加するメリットを感じない
- ④その他

→組織に加入しない理由で最も多いものは
加入してもメリットを感じないため
→会費が負担になっている店舗もある
→20～30代の経営者が営業する店舗は
加入しない店舗が多いとの声もあった



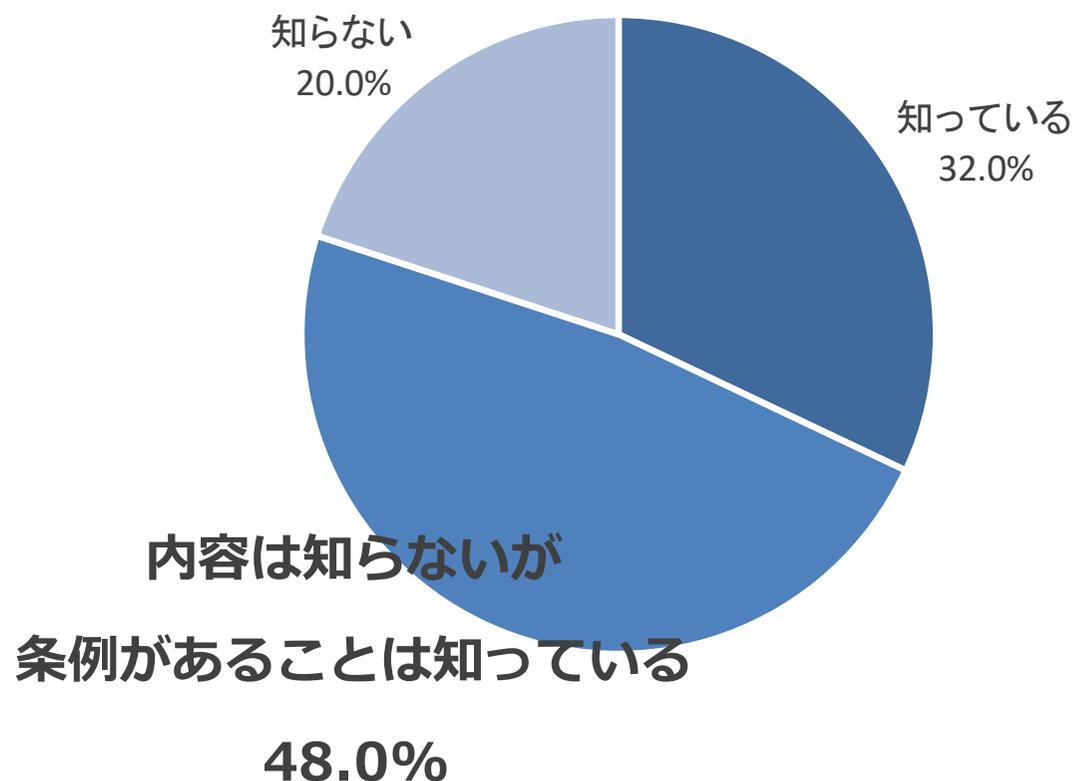
問5 大分県小売事業者等によるまちづくりの推進に関する条例

有効回答数：48団体

質問項目：

- ①知っている
- ②内容までは知らないが、条例があることは知っている
- ③知らない

→「条例を知らない」商店街は
令和元年度40%⇒令和2年度29.8%
⇒今年度20%と減少してきているため、
毎年行う普及啓発活動の効果により
認知度向上につながっている



問6 条例の活用状況において最も近いもの

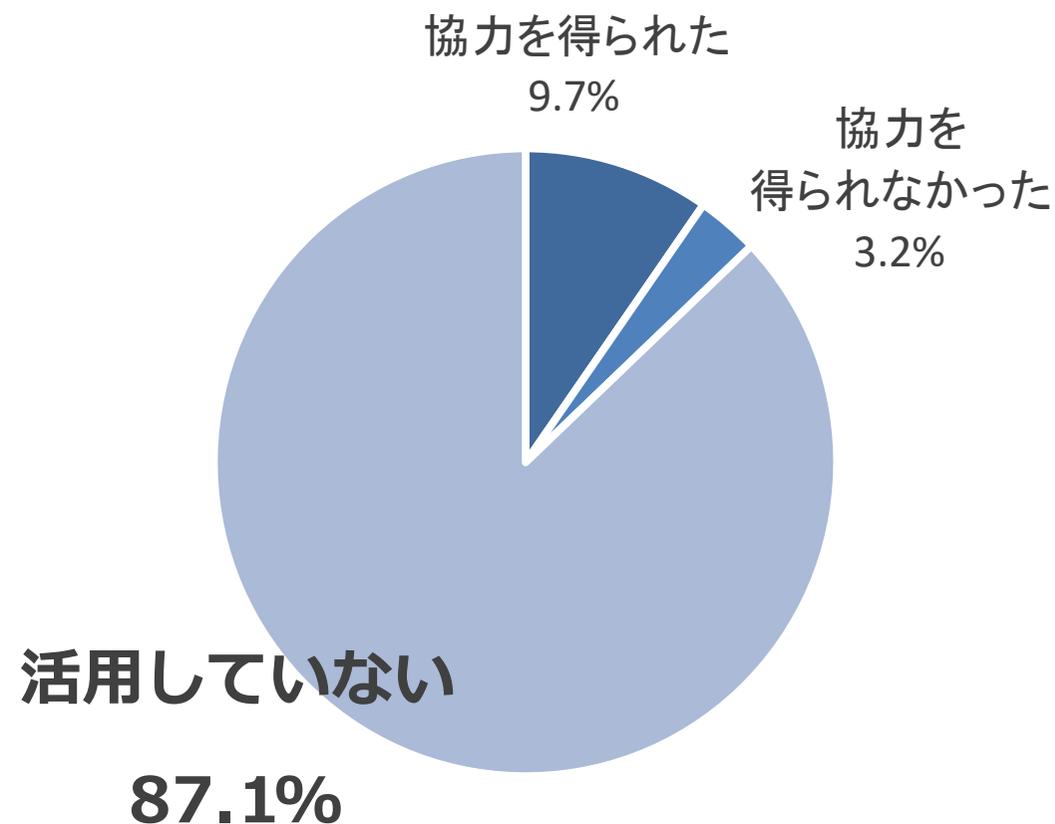
有効回答数：31団体

※問5で①知っている と答えた団体のみ回答

質問項目：

- ①条例を示して協力を依頼し、実際に協力を得られた
- ②条例を示して協力を依頼したが、協力を得られなかった
- ③特に活用していない

- 条例の認知度は上がったものの、
活用していない商店街は昨年度比9%増加
- 条例を活用したことで
組織加入につなげることが出来た商店街もあるため、
さらなる認知度の向上が必要



問7 商店街組織の会員店舗のキャッシュレス導入率

有効回答数：33団体

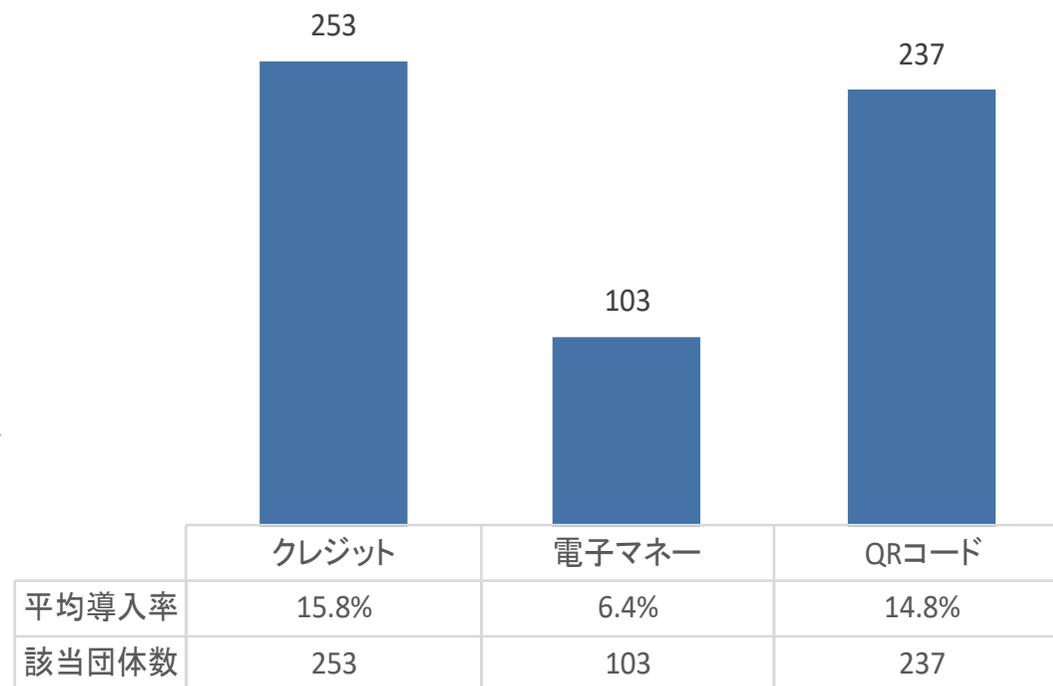
全会員店舗数：1,601店舗（昨年度：1,271店舗）

質問項目：

- ・クレジットカード：253店舗（昨年度：375店舗）
- ・電子マネー：103店舗（昨年度：224店舗）
- ・QRコード：237店舗（昨年度：390店舗）

→昨年度からキャッシュレス導入済と回答した商店街が減少

→会員店舗のキャッシュレス決済の取り組み状況を把握していない商店街も多数あり



問8 目標、ビジョンの設定

設定している団体：12団体

他県の事例：①神奈川県横浜市「六角商店街」…人と人とのふれあいのまち、安心安全なまち、次世代へと受け継がれるまち

②京都府京都市「祇園商店街」…氏子としての使命と、「まち」の結びつき、「まち」としての環境整備とあるべき姿、「まち」と自然環境との共生

- 日本一の商店街
- 芸術文化と商業が出逢う街として癒やしあるおもてなし商店街
- 元気のいい街づくりに全員一丸となって取り組む
- 散策して楽しい通りに
- 地域の活性化にはまず自分が参加して汗を流して楽しみ、後に他人が参加する
- 歴史的伝統文化と調和した商店街づくり
- 個店の魅力アップが感じられる商店街づくり
- ひと（人・高齢者）にやさしい歩いて楽しいまちづくり
- きれいな商店街
- 昭和にこだわった店づくり

→目標・ビジョン（商店街の持続可能性を確保するために「PDCAサイクル」実施の結果設定されたもの）
の必要性を十分理解している商店街が少ない

問9 今後取り組みたいこと（自由記載）

新たな取り組み

- VRなどリモートで実際に商店街を歩いてショッピングできるような取り組み
- バーチャル空間が体験出来るような取り組み
- ドローンを利用して商品を輸送する取り組み
- 宇宙港が大分空港に出来ることから、ロケット産業に商店街が関われるものを研究したい（例：宇宙食のお菓子など）
- イベントの実施

商店街の美化

- カラー塗装
- 街灯の取り替え

その他

- 会員数の増加
- 防犯、防災設備の充実
- ホームページの強化

問9 県による支援を期待すること（自由記載）

金銭的な支援

- ・ 新規・継続問わずイベント事業への補助
- ・ コロナ禍で激減した業種への収入の補填
- ・ プレミア付き商品券の実施

ハード整備に対する支援

- ・ アーケードの老朽化に対する支援
- ・ 駐車場の整備
- ・ 空き店舗対策（大家不明、老朽化、危険家屋、貸し渋り）
- ・ 団体客を迎えられる場所

その他

- ・ 組合加入促進
- ・ 過疎地における買い物難民の救済
- ・ モデル的な事業の実施
- ・ 様々な分野への広報